

(別紙1)

e-ヘルスネット情報提供 栄養・食生活分野のコンテンツ
執筆担当者を対象としたアンケート

今回の情報提供をご一読のうえ、各質問について指示にしたがってご回答ください。なお、お名前を書いていただく必要はありません(無記名)。

1. 年齢をお答えください。何れか1つに○をつけてください。
①20歳代以下 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代 ⑤60歳代以上
2. 性別をお答えください。何れか1つに○をつけてください。
①女性 ②男性
3. これまでの通算した研究歴(教員歴を含む)をお答えください。何れか1つに○をつけてください。
①5年未満 ②5年以上10年未満 ③10年以上15年未満
④15年以上20年未満 ⑤20年以上25年未満 ⑥25年以上
4. 現在の主要な研究スタイルをお答えください。何れか1つに○をつけてください。
①いわゆる実験系 ②いわゆる実践・疫学・調査系 ③何れでもない
5. ホームページによる情報提供内容を常に望ましいレベルに維持するためにはどのような環境整備や支援があるとよいと思いますか。必要性が高いと思われる上位3つ以内に○をつけてください。
①定期的なコンテンツごとのアクセス件数調査
②一般モニターによる評価
③専門家や専門家集団による評価や助言
④少なくとも1年に1回以上の執筆者本人による確認
⑤サイトの運営者もしくは管理者からの確認要請
⑥コンテンツ閲覧者からの直接的な意見収集
⑦コンテンツ執筆者間での自由な意見交換
⑧その他()
6. 今回の情報提供によって、コンテンツの改訂が必要であると認識されましたか。何れか1つに○をつけてください。

①改訂の必要あり → 6-2へ

②改訂の必要なし → 7へ

6-2. それはどのような理由ですからですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

①基準やガイドラインが改められたから

②新しい学説や考え方が公表されたから

③一般モニターによる評価結果

④アクセス件数

⑤語句を修正して、理解しやすくするため

⑥所属や氏名が変わったから

⑦その他()

7. 一般モニターによるコンテンツの評価をどのように受け取られましたか。最も当てはまる選択肢1つに○をつけてください。

①とても納得できる

②どちらかというとな納得できる。

③どちらかというとな納得できない

④まったく納得できない

8. ご自身が執筆されたコンテンツのアクセス件数と他の執筆者のアクセス件数を比較して、どのように受け取られましたか。最も当てはまる選択肢1つに○をつけてください。

①とても納得できる

②どちらかというとな納得できる。

③どちらかというとな納得できない

④まったく納得できない

9. ご自身のコンテンツの執筆レベル(専門用語・専門的な書き方の状況)について、現在の時点ではどのような印象をもっていますか。最も当てはまる選択肢1つに○をつけてください。

①妥当である

②ほぼ妥当である

③やや難しい

④難しい

10. 今回の成績から、この種のコンテンツの執筆レベル(専門用語・専門的な書き方)はどの程度が妥当であると思われますか。最も当てはまる選択肢1つに○をつけてください。

- ①大半の中学生でも無理なく理解できるレベル
- ②一般家庭向けの医学書よりもやさしいレベル
- ③一般家庭向けの医学書レベルと同等
- ④一般家庭向けの医学書よりも難しいレベル
- ⑤専門家向けの医学書レベル

11. e-ヘルスネット情報提供 栄養・食生活分野のコンテンツに関して、あなたの意見や要望などを自由にお書きください。(書ききれない場合は、別紙にお書きいただいても構いません。)

ご協力有り難うございました。

記入済みのアンケート用紙は、宛名などが書かれていない封筒(小)へ入れていただいたのち、返送先が記してある封筒(大)によりご返送ください。

なお、アンケートの返送をもちまして、調査の同意が得られたものとさせていただきます。

(別紙2)

アンケート調査結果の詳細

1. 年齢

	度数	パーセント
①20歳代以下	0	0.0
②30歳代	9	39.1
③40歳代	6	26.1
④50歳代	7	30.4
⑤60歳代以上	1	4.3
合計	23	100.0

2. 性別

	度数	パーセント
①女性	15	65.2
②男性	8	34.8
合計	23	100.0

3. 研究歴

	度数	パーセント
①5年未満	2	8.7
②5年以上10年未満	6	26.1
③10年以上15年未満	5	21.7
④15年以上20年未満	3	13.0
⑤20年以上25年未満	4	17.4
⑥25年以上	2	8.7
未回答	1	4.3
合計	23	100.0

4. 現在の研究スタイル

	度数	パーセント
①いわゆる実験系	4	17.4
②いわゆる実践・疫学・調査系	18	78.3
③何れでもない	1	4.3

5. ホームページによる情報提供内容を常に望ましいレベルに維持するための環境整備や支援

	選択		未選択	
	度数	パーセント	度数	パーセント
①定期的なコンテンツごとのアクセス件数調査	9	39.1	14	60.9
②一般モニターによる評価	10	43.5	13	56.5
③専門家や専門家集団による評価や助言	8	34.8	15	65.2
④少なくとも1年に1回以上の執筆者本人による確認	14	60.9	9	39.1
⑤サイトの運営者もしくは管理者からの確認要請	6	26.1	17	73.9
⑥コンテンツ閲覧者からの直接的な意見収集	8	34.8	15	65.2
⑦コンテンツ執筆者間での自由な意見交換	6	26.1	17	73.9
⑧その他	1	4.3	22	95.7

6. 今回の情報提供による、コンテンツ改訂の必要性

	度数	パーセント
①必要あり	17	73.9
②必要なし	6	26.1

6-2. その理由(改訂の必要あり選択者のみ回答)

	選択		未選択	
	度数	パーセント	度数	パーセント
①基準やガイドラインが改められたから	9	52.9	8	47.1
②新しい学説や考え方が公表されたから	3	17.6	14	82.4
③一般モニターによる評価結果	7	41.2	10	58.8
④アクセス件数	6	35.3	11	64.7
⑤語句を修正して、理解しやすくするため	8	47.1	9	52.9
⑥所属や氏名がかわったから	0	0.0	17	100.0
⑦その他	0	0.0	17	100.0

7. 一般モニターによるコンテンツの評価をどのように受け取ったのか

	度数	パーセント
①とても納得できる	2	8.7
②どちらかというとな納得できる	5	21.7
③どちらかというとな納得できない	15	65.2
④まったく納得できない	1	4.3

8. 自身が執筆されたコンテンツのアクセス件数と他の執筆者のアクセス件数を比較したときの受け取り方

	度数	パーセント
①とても納得できる	8	34.8
②どちらかというとな納得できる	14	60.9
③どちらかというとな納得できない	0	0.0
④まったく納得できない	0	0.0
未回答	1	4.3

9. コンテンツの執筆レベル(専門用語・専門的な書き方の状況)について現時点での印象

	度数	パーセント
①妥当である	2	8.7
②ほぼ妥当である	17	73.9
③やや難しい	3	13.0
④難しい	1	4.3

10. この種のコンテンツの執筆レベル(専門用語・専門的な書き方)の妥当性

	度数	パーセント
①大半の中学生でも無理なく理解できるレベル	1	4.3
②一般家庭向けの医学書よりもやさしいレベル	15	65.2
③一般家庭向けの医学書レベルと同等	5	21.7
④一般家庭向けの医学書よりも難しいレベル	2	8.7
⑤専門家向けの医学書レベル	0	0.0

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
星佳芳, 吉見逸郎, 緒方裕光	保健所における「がん情報」と「たばこ情報」のインターネット配信状況	日本公衆衛生学会総会抄録集	67回	229	2008
岩崎利泰, 馬替純二, 緒方裕光	放射線の生物影響リスクの評価	化学と生物	Vol.46 No.12	832-884	2008
泉峰子, 星佳芳, 磯野威, 曾根智史, 緒方裕光	健康危機管理支援ライブラリーシステム(H-CRISIS)による健康危機情報の提供	医学図書館	Vol.55 No.3	220-223	2008
緒方裕光	医療被ばくの利益とリスク 医療被ばくを受ける患者さんへの放射線リスクマネジメントの要点	日本放射線技術学会雑誌	Vol.64 No.5	598-600	2008
緒方裕光, HAMMOND David, 山口一郎	アジア太平洋たばこ研究-呼気中一酸化炭素濃度に及ぼす喫煙パラメータの影響(予備的検討結果)-	たばこ規制枠組条約に基づく有害化学物質等の新しい国際標準化試験法に関する研究 平成19年度総括・分担研究報告書		45-55	2008
安藤雄一, 中垣晴男, 宮崎秀夫, 葦原明弘, 荒川浩久, 飯島洋一 ほか	乳幼児歯科健診受診児の母親を対象とした全国歯科保健実態調査における標本の代表性	口腔衛生学会雑誌	Vol.58 No.2	95-105	2008
安藤雄一	歯の健康力 歯と栄養 平成16年 国民健康・栄養調査の結果から 2	Food Style 21	Vol.12 No.5	23-26	2008
安藤雄一	8020達成型社会における歯科保健医療 8020、夢から現実へ 歯の喪失 疫学と実感	歯界展望	112巻2号	351-356	2008
養輪真澄, 谷畑健生	疲労マネジメントのための休養のあり方 日本における慢性疲労症候群と慢性疲労の疫学	疲労と休養の科学	20巻1号	15-23	2008
谷畑健生, KanekoAkira, FereraiPedro, Hwaihwanjellomo, HomobherjeFrancis	Asymptomatic reservoir of malaria parasitaemia in Papua New Guinea	日本公衆衛生学会総会抄録集	67回	586	2008
狩野繁之, 水野泰孝, 石上盛敏, 竹内勤, 奥浩之, 畑生俊光, 谷畑健生, ほか	マラリア重症患者の管理および治療体制に関する研究	節足動物媒介感染症の効果的な防除等の対策研究 平成19年度総括・分担研究報告書		281-287	2008
中板育美, 日隅佳子, 宮崎紀枝, 安齋由貴子, 今村知明	継承すべき保健師活動と育成環境整備への課題と対策	日本公衆衛生学会総会抄録集	67回	348	2008
中板育美	産後うつへ保健師はどう関わるべきか 自殺事例から学べること	保健師ジャーナル	64巻7号	584-588	2008
奥山眞紀子, 渡辺好恵, 中板育美, 前橋信和, 加藤瞳子, 松田博雄	市区町村での子ども虐待在宅養育支援の手引き作成に関する研究	児童虐待等の子どもの被害、及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究 平成17-19年度総合研究報告書		267,269-345	2008
伊藤弘人	糖尿病とこころの課題 オーバービュー	プラクティス	26巻1号	36-42	2009
伊藤弘人, 明智龍男, 伊藤敬雄, 河西千秋, 小林未果, 佐伯俊成, ほか	身体疾患と自殺および精神疾患に関する予備的検討	自殺未遂者および自殺者遺族等へのケアに関する研究 平成19年度 総括・分担研究報告書		231-239	2008
宇佐美しおり, 矢野千里, 川田美和, 中山洋子, 野末聖香, 岡谷恵子, 樺島啓吉, 倉知延章, 伊藤弘人, 馬場香織	病状が不安定な精神障害者の自立支援における退院支援ケア・パッケージ作成とパッケージを含む集中型包括型ケア・マネジメントモデル(Community Based Care Management:CBCM)の開発	国際ナショナルナーシングレビュー	32巻1号	88-95	2009

津村和大, 倉崎康太郎, 重田真幸, 大曾根康夫	糖尿病患者における血圧の日内変動および日差変動の解析	日本高血圧学会総会プログラム・抄録集	31回	311	2008
津村和大	糖尿病患者へのステロイド治療の適応 糖尿病専門医の立場から	Medicina	45巻9号	1653-1656	2008
大野敦, 伊東克彦, 大島康男, 太田明雄, 小花光夫, 久保田章, 栗田正, 沢丞, 調進一郎, 鈴木竜司, 詫摩哲郎, 田中洋一, 津村和大, ほか	糖尿病の眼科・内科連携に関するアンケート調査 川崎市の眼科医における検討	川崎市医師会医学雑誌	25巻	24-30	2008
宮地元彦	メタボリックシンドローム対策における最近の動向 高血圧症に有効な運動	日本臨床スポーツ医学会誌	16巻4号	S87	2008
宮地元彦	特定健診と運動指導 メタボリックシンドロームを標的とした動脈系機能評価と対策	Arterial Stiffness: 動脈壁の硬化と老化	14号	26-33	2008
宮地元彦	栄養士のためのお役立ちサイト メタボリックシンドロームに関するサイト	臨床栄養	112巻5号	486-487	2008
由田克士	特定保健指導と栄養	健康管理	650号	6-22	2008
由田克士	健康食品と栄養サプリメント等の利用実態-栄養成分表示・栄養教育検討委員会調査並びに国民健康・栄養調査の成績より-	日本栄養・食糧学会大会講演要旨集	Vol.62nd	66	2008
由田克士	平成18年 国民健康・栄養調査の概要を読む 特定健診・特定保健指導の視点から	食生活	102巻8号	89-95	2008
竹中晃二, 澤佐和子, 浜崎伸夫	健診実施率を高める努力とは? 効果的なポピュレーションアプローチを考える	保健師ジャーナル	64巻12号	1096-1101	2008
竹中晃二	エクササイズガイド2006の普及啓発に関する研究	健康づくりのための運動基準・エクササイズガイド改定に関する研究 平成19年度 総括研究報告書		79-81	2008
竹中晃二	運動・身体活動の実施を勧める ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチに必要な行動変容の課題	糖尿病診療マスター	6巻1号	67-73	2008
奥真也, 竹花一哉, 尾川浩一, 河邊讓治, 巽光朗, 宮内勉, ほか	核医学部門の情報管理戦略ガイドラインの提案	核医学	45巻3号	S154	2008
奥真也, 古井祐司, 満武巨裕, 藤井良, 星本弘之, 大江和彦	特定保健指導の標準化の実効的な拡張	医療情報学連合大会論文集	Vol.28th	143-144	2008
奥真也, 奥田保男, 法橋一生, 安藤裕	可搬媒体による施設間連携のアンケート調査	医療情報学連合大会論文集	Vol.28th	119-121	2008
陳里菜, 宮崎滋	肥満・肥満症の病態診断 肥満の判定と肥満症の診断基準	日本臨床	67巻2号	297-300	2009
宮崎滋	メタボリックシンドロームの克服をめざして メタボリックシンドロームの病態、糖代謝を中心に	糖尿病学の進歩	42号	249-254	2008
宮崎滋, 陳里菜	3日間のメタボリックシンドローム教育入院における治療効果	心血管疾患のハイリスク患者スクリーニングのための新たな診断システムの構築とその臨床応用 平成19年度総括・分担研究報告書		60-62	2008

安藤雄一, 星佳芳, 吉見逸郎, 緒方裕光	Webアンケート作成システムの開発 システムの概要	日本公衆衛生学会総会抄録集	68回	157	2009
星佳芳, 安藤雄一, 佐藤敏彦, 松香芳三, 齋藤高, 西山暁, 吉見逸郎, 濱島ちさと, 石垣千秋, 緒方裕光	Webアンケート作成システムの活用例 ガイドライン作成・普及時のコンセンサス形成	日本公衆衛生学会総会抄録集	68回	157	2009
安藤雄一, 星佳芳, 吉見逸郎, 緒方裕光	アンケート作成システムの開発	Supplement to Journal of Epidemiology	20, Supplement,	348	2010
安藤雄一, 星佳芳, 吉見逸郎, 緒方裕光	アンケート作成システムの開発:システムの概要	公衆衛生情報研究協議会研究会抄録集	第23回	47-48	2010
谷畑健生, 村田陽平, 邱冬梅, 神田秀幸, 吉見逸郎, 尾崎米厚	公的抑圧と喫煙行動	日本公衆衛生学会総会抄録集	68回	408	2009
伊藤弘人	身体疾患に伴ううつ病.	医療の広場	49 (10)	4-8	2009
伊藤弘人	身体疾患とうつ病: これからの取り組み.	精神科治療学	第24巻12号	1529-1533	2009
奥村泰之, 桑原和江, 伊藤弘人	身体疾患に伴ううつ病: NICEガイドライン	Depression Frontier	8巻1号	82-88	2010
宮地元彦	ライフスタイル—生活活動の変容—	日本臨床 増刊号 身体活動・運動と生活習慣病	62(増刊2)	438-443	2009
村上晴香, 嶋智史, 宮地元彦	保健指導に役立つ運動指導—日常生活での身体活動量アップのための身体活動・運動指導—	日本栄養士会雑誌(栄養日本):	52(5)		2009
由田克士, 中川芽衣子, 杉森裕子, 三浦克之, 櫻井勝, 紙貴子, 荒井裕介, 野末みほ, 富松理恵子, 中川秀昭, 石田裕美	管理栄養士が中心となって職域において実施したメタボリックシンドローム改善のための負荷の小さな減量プログラムの効果について	日本栄養士会雑誌	52(9)	17-26.	2009
Wakita Asano A, Hayashi F, Miyoshi M, Arai Y, Yoshita K, Yamamoto S, Yoshiike N.	Demographics, health-related behaviors, eating habits and knowledge associated with vegetable intake in Japanese adults.	Eur J Clin Nutr.	63(11)	1335-44	2009
Sakurai M, Miura K, Takamura T, Ishizaki M, Morikawa Y, Nakamura K, Yoshita K, Kido T, Naruse Y, Kaneko S, Nakagawa H.	J-shaped relationship between waist circumference and subsequent risk for Type 2 diabetes: an 8-year follow-up of relatively lean Japanese individuals.	Diabet Med.	26(8)	753-9	2009
竹中晃二・大場ゆかり・満石寿	運動実施者が一時的運動停止に導かれるハイリスク状況とその対処の評価	体育学研究	55巻1号	157-168	2010
竹中晃二	健康行動変容の理論	糖尿病学会誌	52	507-510	2009
上地広昭・竹中晃二	青少年における身体活動・運動行動へのトランスセオレティカル・モデルの適用	健康心理学研究	21	67-79	2009
山口直比古	【医療安全全国共同行動の参考になる取り組み事例の報告】医療安全全国共同行動から参考になる取り組み事例等の紹介 行動目標8: 患者・市民の医療参加 体と病気を知らるために患者図書室設置の勧め	医療の質・安全学会誌	4巻1号	176-180	2009
山口直比古	医療の安全を高める患者参加の進め方】患者図書室における情報提供 患者・医師間における情報の非対称性緩和のために	医療安全	6巻4号	042-045	2009
Shimotohno KW, Kawamura F, Natori Y, Nanamiya H, Magae J, Ogata H, Endo T, Suzuki T, Yamaki H.	Inhibition of septation in Bacillus subtilis by a peptide antibiotic, edeine B(1).	Biological & Pharmaceutical Bulletin	33(4)	568-71	2010
Suzuki G, Yamaguchi I, Ogata H, Sugiyama H, Yonehara H, Kasagi F, Fujiwara S, Tatsukawa Y, Mori I, Kimura S.	A nation-wide survey on indoor radon from 2007 to 2010 in Japan.	Journal of Radiation Research	51(6)	683-9.	2010

星佳芳, 望月友美子, 内藤徹, 南郷栄秀, 南郷里奈, 廣島彰彦, 豊島義博, 成田俊行, 王国等, 坂本泰理, 廣瀬達子, 三宮範子, 花田信弘, 緒方裕光	コクランシステマティックレビュー「たばこ依存グループ」の英語アブストラクト翻訳のための「たばこ・禁煙グロスアリー/対訳集」作成に資する用語と表現の調査	サイエンス・ヘルスケア	9(2)	99	2010
緒方裕光	科学的根拠に基づく保健医療活動のための情報専門家の教育	医学図書館	57巻1号	32-35	2010
緒方裕光, 奥村貴史	未分類疾患の発見プロセスに関する確率論的考察	保健医療科学	59(3)	236-240	2010
武村真治, 緒方裕光	難治性疾患の疾患概念確立プロセス	保健医療科学	59(3)	241-244	2010
星佳芳, 緒方裕光	健康危機管理とは	相澤好治, 監修. 和田耕治, 編. 臨床がさらに生きる公衆衛生. 東京: 中外医学社		11-21.	2010
松岡志帆, 奥村泰之, 市倉加奈子, 小林未果, 鈴木伸一, 伊藤弘人, 野田崇, 横山広行, 鎌倉史郎, 野々木宏	不全患者の終末期に対する心臓専門医と看護師の認識: ICD認定施設の全国調査.	日本心臓病学会誌.	印刷中		
Hozawa A, Okamura T, Tanaka T, Miura K, Kikuchi Y, Kadowaki T, Yoshita K, Takebayashi T, Tamaki J, Minai J, Tada T, Chiba N, Okayama A, Ueshima H.	Relation of Gamma-glutamyltransferase and alcohol drinking with incident diabetes: the HIPOP-OHP study.	J Atheroscler Thromb	17(2)	195-202	2010
野末みほ, 猿倉薫子, 由田克士	食事調査に用いられる青果物の目安量に関する検討	栄養学雑誌	68	36-41	2010
Okuda N, Miura K, Yoshita K, Matsumura Y, Okayama A, Nakamura Y, Okamura T, Saitoh S, Sakata K, Ojima T, Turin TC, Ueshima H; NIPPON DATA80/90 Research Group	Integration of data from NIPPON DATA80/90 and National Nutrition Survey in Japan: for cohort studies of representative Japanese on nutrition.	J Epidemiol,	20, Suppl 3	S506-S514	2010
Yoshita K, Arai Y, Nozue M, Komatsu K, Ohnishi H, Saitoh S, Miura K; NIPPON DATA80/90 Research Group.	Total energy intake and intake of three major nutrients by body mass index in Japan: NIPPON DATA80 and NIPPON DATA90.	J Epidemiol	20, Suppl 3	S515-S523	2010
由田克士・吉見逸郎・緒方裕光	e-ヘルスネットにおける情報提供内容の評価ー栄養・食生活分野を中心としてー	第69回日本公衆衛生学会総会・日本公衆衛生雑誌	第57巻第10号特別附録	253	2010
堀内明子, 竹中晃二, 大場ゆかり, 上村真美, 齊藤めぐみ	子どもの身体活動量増強を目的とした介入研究レビュー.	健康支援	13	1-10	2011
前場康介, 満石寿, 藤澤雄太, 飯尾美沙, 竹中晃二	高齢者における運動セルフ・エフィカシー情報源尺度の開発と運動セルフ・エフィカシーおよび定期的運動習慣との関連	健康支援	13	19-28	2011
堀内明子, 竹中晃二, 大場ゆかり, 上村真美, 齊藤めぐみ	子どもの身体活動量増強を意図した行動変容介入プログラム: 欧米における事例研究	健康支援	13	29-36	2011
満石寿, 藤澤雄太, 前場康介, 竹中晃二	日本語版MPSSの信頼性・妥当性の検討	禁煙科学	4巻1号	1-6	2010
満石寿, 藤澤雄太, 前場康介, 竹中晃二	禁煙による離脱症状および喫煙衝動の短時間の変化	健康支援	12巻2号	43-48	2010
飯尾美沙, 大矢幸弘, 竹中晃二	小児喘息管理における環境整備行動に影響を与える要因	日本小児アレルギー学会誌	Vol. 24, No. 5	685-692	2010

竹中晃二	ヘルス・コミュニケーション 小児アレルギー疾患における指導の課題	日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌	8巻3号	268-269	2010
藤澤雄太, 満石寿, 前場康介, 竹中晃二	定期的な運動習慣のない女子看護専門学生(1年生)が選択した実施しやすいウォーキング目標に関する検討	健康支援	12巻2号	25-31	2010
前場康介, 井上和臣, 竹中晃二	20代学生喫煙者の禁煙行動における意思決定バランスの検討 変容ステージによる喫煙の恩恵・損失イメージの主観的定量評価の適	日本禁煙学会雑誌	5巻5号	128-135	2010
藤澤雄太, 満石寿, 前場康介, 竹中晃二	女子大学生の身体活動量の増加を意図した面接効果に関する予備的研究: チェンジトークと自己効力感の関連性	学校メンタルヘルス	13(1)	49-58	2010
荒井弘和, 竹中晃二	一過性運動に伴う感情 セルフ・エフィカシーとの関連および感情間の関連性	体育学研究	55巻1号	111-123	2010
竹中晃二	子どもの身体活動ガイドラインに関わる課題	小児保健研究	69巻5号	603-609	2010
竹中晃二	年代別にみた小児のスポーツ医学 わが国の子どもにおける身体活動・運動の行動目標設定と効果の検証 からだを動かすことを厭わない子どもをどのように育てるか?	日本臨床スポーツ医学会誌	18巻3号	376-379	2010
竹中晃二, 藤澤雄太, 満石寿	一時的運動停止に導かれるハイリスク状況への心理的負担感とその具体的対処方略	健康心理学研究	23(1)	61-74	2010
竹中晃二, 大場ゆかり, 満石寿	運動実践者が一時的運動停止に導かれるハイリスク状況とその対処の評価	体育学研究	55巻1号	157-168	2010
前場康介, 竹中晃二	在宅高齢者における転倒自己効力感に影響を与える因子の検討	日本老年医学会雑誌	47巻4号	323-328	2010
Tomoko Tachibana, Kunihiro Takahashi, Toyoo Sakurayama.	Factors causing Rapid Turnover among Novice Nursing Staff: Analysis of the results of the second survey conducted in 2006 on the employment situation of nursing staff in the Tokyo metropolitan area.	Journal of the National Institute of Public Health	vol. 59(2)	178-187	2010
Tomoko Tachibana, Hiromitsu Ogata, Tomofumi Sone.	Goals and Indices in the Evaluation of Health Promotion Measures of Local Governments in Japan. Faculty of Public Health Universitas, Indonesia	the 42nd APACPH Conference Program		108.	2010
榊原真奈美, 野添篤毅	医学研究分野における利益相反問題 エビデンスに基づく情報学的研究	情報の科学と技術	61巻1号	22-27	2010

健康日本21の中間評価、糖尿病等の「今後の生活習慣病対策の推進について
(中間取りまとめ)」を踏まえた今後の生活習慣病対策のためのエビデンス構築に
関する研究 (H20-循環器等(生習)-一般-022)

平成20～22年度 総合研究報告書

2011年3月31日 発行

研究代表者 緒方 裕光

連絡先 国立保健医療科学院研究情報センター
〒351-0197 埼玉県和光市南 2-3-6
TEL 048-458-6209 FAX 048-469-0326

印刷 有限会社 正陽印刷

